

## ◀ 体験記 ▶

# 「Sirius Highway 船内見学会のアテンド」

太洋日本汽船株式会社 堀川 広了

はじめまして。

太洋日本汽船株式会社 堀川広了と申します。

この度「体験記」執筆の依頼があり、内容的にこれでいいのか不安がありますが、ご縁がありアテンドさせていただきました川崎汽船の新造船「Sirius Highway」の船内見学会に関して、見たことや感じたことを書きたいと思います。

今回の船内見学会は、神戸港開港150年の記念事業として神戸市で開催中の「海フェスタ神戸」および日本船主協会の海事普及キャンペーン「船ってサイコ〜」のイベントとして開催され、神戸市内の小中学生や海事を学ぶ大学生等が大勢参加しました。

「Sirius Highway」とは、7,500台の自動車を積載できる自動車専用船（PCTC）で自動車専用船といいながらも鉄道車両（新幹線も）を積み込み輸送ができます。

他の船舶と大きく違うのは、PCCは船橋が前にあり、多くの荷物を積みみたいため他の船型よりも高さが求められる船舶になります。

高さが求められると言っても、幾らでも高くすることは出来ません。風の影響や復元力などの問題もありますが、自動車工場が多くある名古屋のある港に行くためには橋をくぐらないといけないため、上部設備は全体的に高さが抑えられた設計になっています。

実際に7500型の船を見る機会があれば、そういう所などを確認することも面白いかも知れません。



////////////////////////////////////

### 船内見学会の概要

日付：7月16日

開催地：神戸港新港第四突堤（神戸ポートターミナル）西側

新造船「Sirius Highway」の船内見学会  
（神戸開港150年記念事業の一環）

### 「Sirius Highway」スペック

全長：199.96M

船幅：38.0M（新パナマ運河適応型）

総トン数：75,044 G/T 7500台型

主機：7UEC60LSE-Eco-A2

（16,660KW 105RPM）

////////////////////////////////////

本船は7月12日新来島どっく大西工場で竣工し、引渡しされて最初の港が船内見学会が行われる神戸港で、船内見学会の前日7月15日昼頃神戸港に入港しました。

着岸時、告知もしていないはずなのに第四突堤西側の入港船を近くで見られるスペース

には、何処からともなく一眼の高級そうなカメラを持って撮影に来ている人々が何人もいたことに驚きました。

入港後は翌日の船内見学会に備え、順路作りや危険箇所の有無の確認、また、危険な箇所があればその対処などを行いました。

対処としましては、新造船とはいえ、客船ではないため大人にとっては大丈夫でも子どもにとって危険な場所や突起物がありましたので、その対処（テープで巻いたりなど）になります。

船内見学会では小学生、中学生、大人（保護者など）のアテンドをしましたが、子どもの純粋さに心を洗われながらも、ほとんどの組の子どもがユルキャラを虐めていたので子どもの残虐性に恐怖しながらアテンドしていました。

ゆるキャラはご存じJ-Crew Projectのマスコット、キャプテンなみ丸、ペギ機関長、サニーラダーの3人が参加していました。



個人的に見学者が驚いていたように見えたことは、

1. 船の大きさ
2. HOLD内の暑さ
3. 居住スペースのペンキの臭さ（新造船のため）

4. 船に料理人が乗っていること
5. 船橋の広さ
6. ECDISなどの機器（船にもカーナビみたいなものがあるのかと驚いていました）
7. 船内でもインターネットを使用できること

個人的に喜んでもらっていたものとしては

1. 船外から舵が動くのが見えたこと
2. 船橋でのテレグラフの操作や操舵
3. 船橋での飲み水
4. 居住区の部屋の内装を見ること
5. 正装中の船長機関長と一緒に写真を撮ること
6. 船橋での撮影

子どもからの質問としましては、

船に関する質問より、船員の船内生活や休暇中の生活などの質問が印象に残りました。

大人からの質問としましては、

荷役にかかる時間、船尾に書かれているMAJURO（船籍港）は何か、なぜ本船は日本籍でなくマーシャル籍なのか、給料はいくらかなど、船の設備や機器、税金対策などが聞かれることが多かったように思います。

全体としましては子どもも楽しんでいましたが、大人も楽しめる素晴らしい船内見学会になりました。